

専齋 SENSAI



長崎医療センターヘリポートにて。新(H145)旧(EC135)ドクターヘリの貴重な2ショットとなりました。

診療科紹介

Vol.19 産婦人科

特集

長崎県ドクターヘリ新機種導入！

明日を担う

TOPICS

- ・第31回大村地域医療連絡協議会
- ・市民公開講座 健康セミナー
「日々の健康は、肝臓にあり！」
- ・平成30年度集団災害訓練を終えて
- ・第20回日本医療マネージメント学会
学術総会に参加して
- ・新任医師紹介
- ・しょうぶフォーラム

医療センター講演・研修・テレビ出演等

看護部だより

リハビリテーション科だより

SENSAI ごはん

長與 専齋 (1838年～1902年)

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめ採用したのも専齋である。専齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

診療科紹介 Vol.19

産婦人科 PART.1

産婦人科の特徴

- 長崎県内最大の総合周産期母子医療センター
- エビデンスに基づく周産期医療の実践で、日本をリード
- 安心・安全のお産の現場を守るALSO (Advanced Life Support Obstetrics) の取り組み
- WHO/ユニセフ「赤ちゃんにやさしい病院」認定施設
- 術後後遺症の少ない子宮がん手術療法



長崎医療センター産婦人科は、総合周産期母子医療センター、がん拠点病院、さらに長崎県の離島・僻地のバックアップ病院として、地域の産婦人科医療に貢献しています。

長崎県内最大の総合周産期母子医療センター

県内最大で唯一の総合周産期母子医療センターである当院は、県央地区（大村、諫早、島原半島）と離島地域をカバーする2次、3次の周産期センターとして、さらに長崎県全体の3次周産期センターとして、年間200例の母体搬送を受け入れています。年間分娩数は600例で、これも県内最大の規模です。

総合周産期母子医療センターの役割は、ハイリスク妊娠（様々なリスクを抱える母体や胎児・新生児）（表1）の、妊娠、出産、そして新生児管理までの総合的な

管理です。様々な合併症を抱えた妊婦と赤ちゃんの無事な出産と後遺症のない健やかな発育を目指して、日々奮闘しています。切迫早産の治療としての子宮収縮抑制剤点滴治療の短期化の徹底と内服薬の撤廃、経膈分娩時のクリステル圧出法の廃止、低い会陰切開率など、エビデンスに基づいた母体にも胎児にも優しい周産期医療を実践しています。とりわけ、糖尿病・妊娠糖尿病の治療と管理では、日本をリードする実績を上げ国内外へ情報発信をしています。

疾患名	症例数(2017年)
切迫早産・頸管長短縮	136
前期破水 (preterm PROM)	32
多胎妊娠	43
妊娠高血圧症候群	44
糖尿病・妊娠糖尿病	108
子宮内胎児発育不全	35
胎児奇形・その他の胎児異常・羊水量異常	58
常位胎盤早期剥離・胎児機能不全	55
前置胎盤	18
その他の合併症妊娠	40

表1. 当院で2017年に取り扱った主要な産科疾患

疾患名	症例数
子宮頸癌	50
子宮頸部上皮内新生物	32
子宮体癌	27
卵巣癌	31
子宮肉腫	2
子宮筋腫	33
良性卵巣腫瘍	33
子宮内膜症	6
子宮内膜増殖症	6
子宮脱	11
骨盤腹膜炎	3
子宮外妊娠・卵巣出血	9
子宮出血	3
外陰癌・膣癌	1

表2. 当院で2017年に取り扱った主要な婦人科疾患

超緊急帝王切開術の定期的なシミュレーション訓練

周産期医療のもうひとつの側面は救急医療です。胎児が生命の危機に晒され可及的速やかな娩出と蘇生が必要な場合、産科大量出血で母体の救命のために一刻も早い処置を必要とする場合、その両者が混在している場合など、母児の生命予後に関わる緊急事態に対応する救急医療です。ときに母児の生命を救うため極めて緊急性の高い対応を迫られます。当院の周産期センターでは、3ヶ月に1回、産婦人科、新生児科、手術部スタッフによる超緊急帝王切開術のシミュレーション訓練を行っています。

超緊急帝王切開術とは、突然胎児の状態が急変し、一刻も早く児を娩出させて新生児蘇生を行う必要がある場合に行う帝王切開です。**“超緊急帝王切開の宣言をしてから児の出生まで30分以内、可能な限り早く”**を目指して定期的な訓練を行っています。このシミュレーション訓練を開始する以前の2005年頃は、平均32分（最短9分、最長52分）の時間を要していましたが、様々な問題点を解決しながら、昨年の統計では児娩出まで平均18分（最短8分、最長29分）まで短縮しました。

またTVドラマ「コウノドリ」で話題になった、死戦期帝王切開術 (PMCS) のシミュレーション訓練にも一昨年から取り組んでいます。日本では世界に類を見ない妊婦の高齢化が進んでおり、妊産婦の心肺停止な

どの突発事態のリスクが増加しています。PMCSは母体の救命を目的とした帝王切開で、心肺停止から5分以内の児の娩出を目指すものです。このような事態は起こらないのがベストですが、いざという時に対応可能な体制作りを始めています。



図2. 死戦期帝王切開術のシミュレーション訓練
「39歳初妊婦 (妊娠34週)、病棟廊下で心肺停止となったところを発見」という想定訓練

特集

長崎県ドクターヘリ新機種導入!



高度救命救急センター長 中道 親昭

2006年12月より運航開始した長崎県ドクターヘリですが、今年度中には8000件の出動実績を達成する見込みです。導入以来EC135という機体を用いて活動して参りましたが、2018年7月より新しいH145という新機種を導入することとなりましたのでご紹介いたします。

長崎県ドクターヘリの特徴として、離島も含む広い県域をカバーしているため飛行時間が長い／遠方からの搬送も多くご家族の同乗が必要なケースが多い／フライトドクター及びナースを教育する病院に指定されているなどがあげられます。これらの特徴も踏まえ、現有の機能に加えて①安全機能の強化、②安全な医療提供・医療従事者の教育・ご家族の同乗を可能にする空間の確保の2点を、機種選定のための主たる条件としました。これらの条件を満たす機体としてH145が選定されました。当時は日本に1台しかなく、同機体は医療用ヘリではありませんでした。従って今回長崎県に導入されたH145は、日本で2台目、かつドクターヘリとして導入されるのは日本初となります。

新機体は全長約13.6m・全幅約11m・全高約4m・重量約3700kgとEC135より一回り大きくなっています。その分パワーアップしており、騒音はさほど変わりませんが離着陸時に発生する風は強くなっています。巡

航速度240-250km/時、最大速度265km/時と大きな変化はありませんが、最大航続距離が740kmと約120km延長して

います。

装備に関しては、自動操縦機能、衝突防止・対地接近警報装置、マップ機能、ボイス・フライトレコーダーなど新規の機能が追加され安全性が向上しています。

我々が活動する後方室内空間に関しては、これまで縦に2列しか配置できなかったシートが3列配置可能となり、頭側、横の空間も拡大しました。診療のしやすさ・ご家族の同乗・医療従事者への教育などこれらのいずれにおいても対応力が向上しています。

上記のように機動性は損なわず、安全性は向上し、さらに医療が提供しやすいドクターヘリと進化しています。

導入より10年以上経過しドクターヘリは長崎県の救急医療において不可欠なシステムとなりました。出動時においては騒音・埃などご迷惑をおかけいたしますが、今後も皆様のご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



明日を担う

Vol.5

当院の“明日を担う”スタッフに、
work、life、そしてvisionを語ってもらいましょう。

管理栄養士

よしかわ

ちさと

吉川 千里

profile

出身地：大村市

職種：管理栄養士

好きな曲：the band apartの「夜の向こうへ」



Q：栄養士を目指したきっかけを教えてください。

A：元々は調理師になりたかったのですが、病気の人の栄養状態を改善する管理栄養士という職業を知り、興味をもったのがきっかけです。糖尿病だった祖父が入院、寝たきりになり、ミキサー食を食べているのを見て病院食について知りたと思いました。実際に勉強してみて、その人それぞれに合わせて形態や食事を変え、病院食を考えて病気を食事で改善する栄養士ってすごいなと感じました。

Q：栄養士として大切にしていることは何ですか。

A：現在は主に栄養指導とNST担当で仕事をしているのですが、患者さんにわかりやすい栄養指導ができるように心がけています。実際患者さんが理解されているのか、家で実施可能かも確認しながらの提案ができるようにしています。

Q：がん病態栄養専門管理栄養士の資格を取得されていますが、どのような資格ですか。

A：がんの栄養管理・栄養療法に関する、実践に即した高度な知識と技術を習得した、栄養に関する専門職に対する認定制度です。九州がんセンター在職時に上司に勧められて取得したのですが、がん患者さんの栄養管理に関して再勉強する良い機会となりました。

Q：がん病態栄養専門管理栄養士の資格は病院にとってもメリットがあるものですか。

A：今まで非加算で行っていたがん患者さんの栄養指導ですが、平成28年度の診療報酬改定で、病名に「がん」がある方からは栄養指導加算がとれるようになりました。この資格を活かしてがん患者さんの食事に対する不安を軽減したいと思っています。

Q：ワークライフバランスはいかがですか。

A：地元の友人と、大村のご飯屋さんやカフェめぐりをしながらリフレッシュしています。

Q：今後の抱負を教えてください。

A：資格を活かして、がん患者さんの栄養指導にもっと力をいれていきたいなと思います。

Q：当院スタッフへのメッセージをお願いします。

A：他の職種の方と話す機会があまりないので、もっとコミュニケーションをとれるようにになりたいです。

Q：地域の医療機関の皆様へメッセージをお願いします。

A：NST介入中の患者さんは、栄養状態改善途中で退院となり、地域の医療機関へお願いすることが多いので、栄養管理の継続をお願いしたいと思っています。

聞き手：内分泌・代謝内科医長 厨 源平

第31回大村地域医療連絡協議会

統括診療部長 吉田 真一郎

平成30年6月26日に大村地域医療連絡協議会がインターナショナルホテルで開催されました。本会は大村市医師会と大村市内の公的3病院(長崎医療センター、市立大村市民病院、長崎県精神医療センター)の円滑な医療連携を目的として毎年開催されているもので、今年で第31回となる伝統ある会です。今回は当院から、新しい研修医を含め新任の先生を中心に、97名が参加しました。



前半の協議会では、まず朝長昭光大村市医師会会長、そして3病院からそれぞれ江崎宏典院長、立花一幸管理者、高橋克朗院長のご挨拶がありました。続いて山下直宏大村市医師会副会長より、「アドバンスド・ケア・プランニング(ACP) に対する大村市医師会の取組」のご講演があり、大村市でも今後さらに高齢化が進み、多死社会を迎えることが予想される中で、地域として取り組むべき大変重要なテーマであると思われました。

その後懇親会へと移りました。最初に田崎賢一大村

市医師会副会長から乾杯のご発声を頂き、歓談が始まりました。会では恒例の新入出席者紹介があり、当



院からも60数名が自己紹介の挨拶を行いました。続いて前日6月25日夜に開催された医師会主催のボウリング大会の表彰がありました。当院からは8名が参加し、肝臓内科医長の阿比留正剛先生が個人戦3位、団体戦では長崎医療センターAチーム(江崎宏典院長、前田茂人外科医長、阿比留正剛先生、北里周先生)が見事優勝の結果で、豪華賞品を頂くことが出来ました。

例年通りの和気あいあいとした雰囲気の中で会は進み、最後は澤芳弘大村市医師会副会長の万歳三唱でおひらきとなりました。お互いが顔を合わせて懇親を深めることができ、大村地域におけるさらに良好な連携関係の構築につながっていくものと思います。最後になりましたが、会をご準備頂きました大村市医師会の先生方、関係の皆様、本当にありがとうございました。

TOPICS

市民公開講座 健康セミナー 「日々の健康は、肝臓にあり！」

臨床研究センター 肝炎治療研究室長 長岡 進矢

7/8(日) 大村市コミュニティーセンター 大会議室において、市民公開講座を開催いたしました。台風、大雨のあとにもかかわらず大村市民を中心に160名ほどの参加をいただきました。園田大村市長のあいさつにはじまり、その後2部構成で会は進行しました。

第1部は3人の演者による講演で、まず大村医師会会長 朝長昭光先生より「もっと知ってほしい、安心して暮らせる大村市の医療」と題して、超高齢化社会における大村市の在宅医療への取り組みを中心としたお話をいただきました。次に私が最近のウイルス肝炎の治療の進歩、最近問題となっている脂肪肝と生活習慣病の関係についてお話させていただきました。3番目に朝長宏臣 ともなが内科クリニック 生活習慣病予防センター長に肝臓と筋肉の関係についての講演、そしてストレッチや手軽にできる下半身の筋力トレーニングをインストラクターとして参加者全員に指導していただきました。

第2部は当院肝臓内科医長の阿比留先生も加わり、八橋臨床研究センター長の司会で、事前に寄せられた質問にお答えする形のパネルディスカッションをおこないました。肝炎に関する医療制度や治療、栄養、そして正しいお酒との付き合い方などパネリストを悩ませるテーマもあり、終始な和やかな雰囲気の中で2時間のセミナーを終えました。

これまで肝臓が悪い方は安静をというのが常識的でしたが、「筋肉は第2の肝臓」という言葉もあるように、適度な運動で筋力を維持し、みなさんの健康寿命増進に寄与できるよう今後もこのようなセミナーを開催してゆきたいと思いました。

最後に、ご協力いただきました皆様方に心より感謝いたします。



TOPICS

平成30年度集団災害訓練を終えて

高度救命救急センター長 中道 親昭

熊本及び大阪北部地震の教訓のもと、当院が被災した想定での訓練を実施いたしましたのでご報告いたします。

今年度は外科系医師赤エリア内手術対応・対策本部立ち上げ・クロノロ記載・カルテ記載など事前に各々の訓練を行い実動訓練へ向けた準備をすすめてきました。

平成30年7月9日14時橘湾を震源とする震度6の地震が発生したという設定にて実動訓練を行いました。発災直後に江崎院長より災害対策本部立ち上げの指示があり、当院被災状況の把握(患者・職員・建物・ライフラインなど)、各エリアの立ち上げを行いました。その後エレベーター停止・使用不可、建物及びライフライン使用可を確認、対策本部により傷病者受入可及び1階に臨時病棟立ち上げとの業務継続計画が立てられ、全館放送にて全職員に周知されました。

活水大学看護学部学生の協力のもと82名の模擬傷病者(赤14名、黄12名、緑40名、黒6名)が当院に搬送または自主来院し受入訓練を実施しています。また患者家族役2名、マスコミ役2名、ボランティア役15名も参加し担当部門が対応を行う訓練も行いました。また今回はじめての試みとして、ボランティアの協力のもと非常食の配食訓練も実施し、試食も行っています。

例年と比べ手術、放射線検査、臨時病棟入院、転院と円滑に行われ、重症の患者が特定の場所に滞ることは回避されていた印象でした。情報共有・伝達が以前よりスキルアップしたと考えられます。一方資器材に関しては、エレベーター停止に伴う病棟からの供給減のため枯渇してしまい、院内搬送に支障を来すことが発生するなど課題も浮き彫りとなりました。

院内職員のみならず活水大学看護学部及び県央消防本部関係者など多数の方々にご参加いただき災害訓練を無事終了することができました。こ

の場を借りて改めてお礼申し上げます。

今年度は6月18日大阪北部地震、7月6日西日本豪雨と自然災害が続いています。長崎県基幹災害医療センター・国立病院機構九州ブロック災害拠点病院・原子力災害拠点病院である当院が、しっかり災害対応できるよう、平時より訓練を通して怠りなく準備を行う重要性がさらに増してきていると言えます。引き続きご協力の程よろしく申し上げます。



第20回日本医療マネジメント学会学術総会に参加して

4B病棟 助産師 森塚 亜紗美



2018年6月8日～9日に北海道札幌市で行われた日本医療マネジメント学会へ参加してきました。前日まで梅雨とは思えないほど晴天だったのですが、当日から生憎の雨で一気に10度も気温が下がりました。凍えていた私達とは裏腹に、半袖姿で歩いて

いる人を見た時は北海道民の寒さへの強さに驚きました。

学会では「ERAS導入後の帝王切開術パスのバリエーション評価」という表題でクリティカルパスの発表を行いました。ERAS(Enhanced recovery after surgery)とは手術後の回復促進に役立つ各種ケアをエビデンスに基づいて統合的に導入し、早期の社会復帰を達成する方法です。当院産婦人科でも術後の早期回復

と在院日数の削減を目的として帝王切開パスを導入しています。バリエーション分析の結果、ERAS導入によりバリエーションが増加することはなく、積極的な疼痛管理が早期回復と特に関連あることがわかりました。



この発表には多くの施設から興味を持っていただいたこともあり、優秀演題賞をいただくことができたと思います。今後も適宜パスの修正や評価を行いながら、術後の早期回復や更なる在院日数の削減へつなげていきたいと考えています。

最後に、研究のご指導をいただいた阿久根師長さんをはじめ、学会へ派遣していただいた看護部の方々に深くお礼申し上げます。

指導医から一言

病理診断科/産婦人科 梅崎 靖

本学会には当院クリパス委員から2つ演題を発表しました。森塚助産師の演題は産婦人科で導入したERASプログラムの評価に関するものです。この演題はもともと一般演題ポスター部門に登録予定でしたが、手違いでパス展示コンペ部門に登録していました。これに気づいたのが出発3日前で、ポスターを全

て作り変えて発表に臨んでいます。コンペなのでパスの優れた点を簡潔にアピールする必要がありますが、実際の発表は堂々としたもので多くの注目を集めました。優秀演題賞に値する内容だと思います。その夜の成吉思汗だるまでのサッポロクラシックの味は格別なものになりました。

TOPICS

新任医師紹介



耳鼻咽喉科医師
副島 駿太郎

7月1日付けで大学病院から転勤になりました、副島駿太郎と申します。長崎生まれ長崎育ちであり、本籍は大村の乾馬場です。こちらの病院は、クリクラで一ヶ月間、お世話になった時以来です。あの頃の熱い気持ちを思い出しつつ耳鼻咽喉科として日々診療に励みたいと思っております。ご迷惑をおかけすることも多々あるかと存じますが、皆様よろしくお願い致します。



産婦人科レジデント
小池 由実

産婦人科新研修制度の一貫で、7月1日より半年間勤務させて頂くことになりました。千葉県亀田総合病院より参りました。長崎県の総合周産期センターでかつ指導体制の整った医療センターで、産婦人科医としての基盤を築けることを大変嬉しく思います。ご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、一生懸命頑張りますのでご指導どうぞよろしくお願い致します。

TOPICS

しょうぶフォーラム

事務部長 藤野 弘幸

第3回しょうぶフォーラムが6月23日(土)9時から15時まで、当院のあかしやホールで開催されました。しょうぶフォーラムは、他職種間での自由な意見交換を通じて職員同士の和を深め、現場から病院への提言を作成することを目的として企画され、今年で3回目の開催となります。今年のしょうぶフォーラムは、国の「働き方改革」の動きや機構として取り組んでいる「長時間労働の削減」もあり、「働き方改革」をテーマとしました。

江崎院長から「長崎医療センターにおける働き方改革」という基調講演に続いて、当院顧問弁護士の福岡博孝様から「病院での働き方改革～医療者は何をどうすれば良いのか?～」という特別講演をしていただきました。福岡先生の特別講演は、働き方改革関連法案の概要、医師の働き方改革に関する検討委員会の中間論点整理のポイントを大変わかりやすく解説いただき、午後のグループディスカッションの参考となりました。

また、講演には、長崎県医療政策課、医療人材対策室、長崎県病院企業団からの聴講もあり全体で108名の参加でした。

病院として「働き方改革の推進」を今年の運営方針に上げ真剣に取り組んでいるところであり、今回のフォーラムでの皆さんの貴重な意見も参考に改革を推進していきたいと思います。



医療センター講演・研修・テレビ出演等(8・9月)

(敬称略)

がん化学療法セミナー

開催日	時間	開催場所	内容	講師
9月5日(水)	18:00~19:30	臨床研究センター会議室	過敏症・血管外漏出 抗がん剤の適正使用の取組み (エルブラット)	がん化学療法看護認定看護師:村上摩利 がん薬物療法認定薬剤師:谷口潤

これらの講演は、地域の医療従事者の皆様に開放しています。詳細は病院のホームページをご参照下さい。 <http://www.nagasaki-mc.jp/pages/205/>

肝がん撲滅運動「市民公開講座」・「肝疾患患者家族支援会」のご案内

当院にて、市民の皆様・肝疾患患者さんを対象とした市民公開講座・肝疾患患者家族支援会を企画しております。

一般社団法人日本肝臓学会主催 肝がん撲滅運動
『市民公開講座』

【日 時】平成30年10月4日(木) 15:00～16:00

【場 所】人材育成センター あかしやホール

長崎県肝疾患診療連携拠点病院事業

『肝疾患患者家族支援会』

【日 時】平成30年10月4日(木) 16:00～16:30

【場 所】人材育成センター あかしやホール

入場は無料です。事前の申し込みも必要ありません。皆様のお越しをお待ちしております。

看護部だより

長崎医療センターの縁の下の力持ち

看護師長 稲田 律子

当院の看護スタッフには、看護師や助産師の他に看護助手35名、クラーク25名が病棟や外来、手術室で勤務しています。看護助手は、患者さんに快適な環境で入院生活を送っていただくためにベッドメイキングや食事の配膳、後片付け、手術室の清掃や術衣の整理整頓など行っています。クラークは、電話対応、書類整理、入院時の案内などを行っています。定期的な研修を受けながら、知識や技術の向上にも努めています。患者さんの治療や検査がスムーズに行えることはもちろんですが、快適な入院生活を送っていただけるように毎日笑顔で生き活きと働いています。

《手術室の看護助手業務の様子》



《病棟クラークの様子》



《看護助手業務の様子》



リハビリテーション科 だより



リハビリテーション科 理学療法士長 中川 真吾

1. スタッフ・施設基準

現在は整形外科部長のもとに、リハビリ科医長1名、理学療法士12名、作業療法士4名、言語聴覚士2名で構成(写真1)され、心臓リハビリテーション指導士や3学会合同呼吸療法認定士もいます。

リハビリ施設基準は、**運動器(1)・脳血管疾患等(1)・廃用症候群(1)・心大血管疾患(1)・呼吸器(1)・がん患者**です。心大血管リハビリではリハビリ科スタッフだけでなく、病棟看護師の専従・専任とともに実施しています。言語療法部門においては言語訓練等だけでなく、嚥下障害へ関しては耳鼻咽喉科協力のもと、VE検査(内視鏡検査)やVF検査(嚥下透視検査)も行っています。



2. 診療実績

リハビリ処方は22の診療科から依頼がありました。(表1、表2)土日祝日年末年始等も少人数ではありますが出勤し、365日リハビリテーションを可能な範囲で提供しています。

診療科	症例数	比率	診療科	症例数	比率
整形外科	591	23.3%	精神科	69	2.7%
脳神経外科	344	13.6%	形成外科	58	2.3%
総合診療科	311	12.3%	肝臓内科	51	2.0%
神経内科	226	8.9%	腎臓内科	30	1.2%
呼吸器内科	146	5.8%	消化器内科	30	1.2%
循環器内科	113	4.5%	泌尿器科	22	0.9%
呼吸器外科	104	4.1%	耳鼻咽喉科	18	0.7%
外科	101	4.0%	産婦人科	12	0.5%
血液内科	100	3.9%	内分泌・代謝内科	11	0.4%
小児科	92	3.6%	救急科	11	0.4%
心臓血管外科	88	3.5%	皮膚科	4	0.2%
			合計	2,532	100%

表1. リハビリ実施患者の診療科と実患者数・比率

3. カンファレンス、ラウンドなどでの他部門との連携

整形外科、脳(脳外科・神経内科)、呼吸サポートチーム、心大血管リハビリ、血液内科、緩和ケア、救命救急センター病棟リハビリ、呼吸器外科などのカンファやラウンドにも参加し、多職種との情報交換・連携に努め、安全で積極的なリハビリテーションを目指し実施しています。



整形外科カンファ



脳外科カンファ



呼吸サポートチーム ラウンド

疾患名	症例数
1)脳梗塞	229
2)肺癌	179
3)誤嚥性肺炎	110
4)肺炎	108
5)うっ血性心不全	79
6)脳出血	77
7)大腿骨転子部骨折	75
8)胸・腰椎圧迫骨折	74
9)大腿骨頸部骨折	67
10)変形性膝関節症(膝OA)	61

表2. 疾患名と症例数



SENSAIごはん



暑い夏にぴったりの
冷たい

豆乳スープ



材料 (2人分)

- 豆乳(無調整) 1カップ
- 味噌 大さじ1杯
- 極旨香だし 1カップ
- 薄口醤油 小さじ2杯
- みりん 小さじ1杯
- かつお節 少量
- ごま 少量

作り方

- ① 極旨香だしを温め、味噌を溶かす
- ② ①に豆乳と薄口醤油、みりんを入れて火を止める
- ③ ②を冷蔵庫で冷やす
- ④ 冷えたらかつお節とゴマをふる

胡瓜やみょうがなどの
夏野菜を入れるのも
おすすめだよ

管理栄養士 原田より



大豆レシチンはコレステロールを乳化して肝臓へと運び排泄させるため、動脈硬化を予防する効果があります。また、神経伝達物質を生成することにより、脳を活性化して認知症の予防にも効果が期待されています。



理念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真気で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実にを行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- 絶対に断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する